

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4074600109		
法人名	社会福祉法人北筑前福社会		
事業所名	津屋崎園グループホーム座々		
所在地 (電話番号)	福岡県福津市奴山1205-1 (電話)0940-52-0098		
評価機関名	株式会社アーバン・マトリックス		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成19年5月23日	評価確定日	6月11日

【情報提供票より】(平成19年3月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	21 人	常勤	14人, 非常勤 7人, 常勤換算 7.45人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り 2階建ての1階～2階部分
------	----------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	49,800円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000円)	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,100円		

(4) 利用者の概要(3月31日現在)

利用者人数	18名	男性	4名	女性	14名
要介護1	9名	要介護2	4名		
要介護3	3名	要介護4	2名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 86.2歳	最低	73歳	最高	94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	津屋崎中央病院
---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

運営理念を「共生＝共に生きる」を掲げ、「楽しくなければ座々じゃない」を方針とし、所長・管理者・職員が一丸となって取り組んでいる。グループホーム周辺は、のどかな田舎の風景で自然に囲まれ、畑などもあり、ゆったりと過ごせる環境を有している。共用空間は、花や緑に溢れ、花を育てる人には花を育てる楽しみや活ける楽しみがあり、居室の出窓に花を置けるなど、個人の嗜好を尊重したケアを行っている。居室は全てトイレ付きで、プライバシーを尊重する空間づくりとなっている。毎月の行事をはじめ、季節ごとの非日常体験の行事など、多彩で楽しく暮らすプログラムが組まれている。家族には、毎日の暮らしがわかる様に、日々の写真を撮り、写真と共に報告することにしており、家族にとっては、安心して暮らせるグループホームとして信頼感が高い点が評価できる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回調査では、地域との連携・記録の工夫・入浴日の設定が課題となっていた。地域との連携では、運営推進会議を開催し、地域住民の方の参加を呼びかけ開催している。また、避難訓練などの協力依頼も行うようにしている。記録の方法は、入居者の時間ごとの詳細な記録が取られている。入浴は希望者は毎日でも希望にそって、ゆっくり入浴できるように支援している。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	前回の課題解決に向けて取り組み、大きな成果を出している。記録の方法に関しては、詳細な記録を取ることが職員の負担にもなっており、記録の方法・工夫が課題となっている。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議では、サービスの状況などを報告し、取り組みに関する意見交換を行っている。今後は、運営推進会議のテーマを具体的に設定し、運営推進会議の機会や場を活かし、ボランティア参加による生き生きとした暮らしの情報提供など、認知症になっても、地域で安心して暮らせることなど、地域の方々への認知症の理解を高めるために、積極的に情報発信を行うことが求められる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族へは毎月定期的に日常の様子を添えて便りを送り、家族の方々は大変喜ばれている。家族の意見や希望は、意見箱を玄関に設置している。また、全職員が家族に不満・苦情はないかを常に尋ねるように心がけている。運営推進会議への家族の参加を積極的に働きかけ、意見や苦情などを気軽に言える場として活かしていくことが求められる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	グループホームの庭には畑があり、近隣の方の協力が得られる関係にある。また、周辺も畑が多く、収穫物の差し入れをいただいたり、関係づくりができています。地域の行事・運動会・放生会・文化祭等の見物等を行っている。今後は、地域の方々の介護の相談に対応するなど、認知症の専門性を活かした積極的な情報発信が求められる。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念「共生」を掲げ、「楽しくなければ座々じゃない」を基本方針とし、毎日、楽しい思い出作りをする 毎日、美味しい食事を提供する 毎日、健康な日々を送ってもらうことを目標に毎日の暮らしやケアを支援している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念は事務所・玄関・共用空間の壁に掛けられ、職員が意識して理念の実現に向けて取り組めるようにしている。また、朝礼や機会があるごとに職員に具体的に話し、共有化を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の方の運営推進会議の参加をはじめ、地域の行事・運動会・放生会・文化祭などの参加を行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年度の評価の改善項目をグループホームの課題とし、評価を活かす取り組みを実践している。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、グループホーム座々の運営理念の理解を育み、日々の取り組み状況を報告し意見交換を行い、ケアを活かす取り組みを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村との連携を積極的に行い、地域包括支援センターへは、市からの依頼により職員2名を派遣している。今年の秋には、市の依頼で認知症のセミナーを開催する計画がある。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護が必要な方には、入居者やご家族に説明・アドバイスをし支援している。		全職員が認知症の重度化に伴う症状を再度確認され、共通理解のもとで、入居者やご家族に説明できるように研修の充実が求められる。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎日の入居者の暮らしの状況を写真に撮り、毎月、家族に送っている。体調の変化がある時は必ず家族に連絡するなど、家族が安心できる連絡体制を作っている。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の方々には、意見箱の設置や面接時に話を伺う様のように努めている。職員は年1回、改善提案を募り、職員の意見を運営に反映させるようにしている。また、月に1回ミーティングを行い、サービス内容の改善を話し合っている。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は、毎月の便りなどで家族にお知らせしている。基本的な運営方針として、同じ職員では対応が画一化するため、入居者の様々な能力を引き出すために、職員の異動は入居者の状態を考慮しながら行っている。この点は家族に説明している。		運営方針として、職員の異動は入居者のケアの一貫性を図るためにも必要とし、同じ職員では見えないところが見えてくるなど異動によるケアの充実を図ることを目標にしている。家族への説明をされているが、理解を高める努力が求められる。
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。	性別・年齢などを理由に採用は行っていない。職員が生き甲斐を持って勤務できるように配慮を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	入居者の人権を尊重し、常に敬いの気持ちで介護ができるように、啓発ポスターを貼っている。		今後も人権教育・研修などにも参加できるように支援していく方針がある。
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	法人全体の研修計画があり、毎月1回研修会に参加することを支援している。また、法人以外の研修受講も積極的に支援しており、特に資格取得を支援している。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	近郊のグループホーム間で情報交換などを行い、職員が他のグループホームでの実習ができるなど支援している。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	入居の際には、2～3日間は入居者の状態や様子を見守り、入居が可能かどうかを確認している。また、家族と同じ言葉掛けをするなど、違和感を感じなくてすむように配慮している。		今後は、体験入居で夜間の状況が把握できるなど、入居に当たっての環境を充実させたいと考えている。
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	職員は入居者の状況を「自分だったら」「自分にとって」という振り返りの視点をケアに活かすように支援しており、入居者に立場に立った支援を行うようにしている。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を導入し、個別のケアの実践に取り組んでいる。「楽しくなければ座々じゃない」という運営方針のもと、入居者の全体像の把握に取り組み、暮らしの中の「楽しみごと」の素材を見つけることが求められる。		入居者の思いや意向の把握は、毎日の職員の気づきによるものが大きい。職員の気づきをメモで、その時々記録し、次回のアセスメントに活用できれば、入居者の意向に寄り添ったケアが可能になるのではないと思われる。
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式の導入により、入居者の生育歴や生活歴の把握をしようと努力されている。今後は、日々の気づきをケアの内容に取り入れ、さらに入居者の喜ぶこと、楽しむことを掘り下げられることが求められる。		家族の協力が得られやすい状況にあるため、センター方式を活かし、家族からの入居者の生育歴や生活歴の情報を分析し、介護計画に反映されることが望まれる。
19	39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、定期的に見直され、状態変化が生じた場合には状態に即した計画を作成している。		
3.多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同法人のデイサービスセンターや特別養護老人ホームとの連携により、要望に応じて多彩な行事やアクティビティ参加ができるように支援している。また、家族の方や近隣の方からの介護の相談を受けることがあり、その際には、アドバイスを行うようにしている。		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関と提携し、月に1回訪問診療を受け、週に1回は訪問歯科を受けている。また、入居者のかかりつけ医には、職員や家族が付き添っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	重度化の場合を想定され、ほとんどの入居者の方が他施設への申し込みを行っている。家族からの終末期の相談に応じており、今後は、終末期のあり方を含め、検討する段階にある。		次の段階として、地域の医療機関や訪問看護との連携に関する取り組みが求められる。運営推進会議の中でも、終末期に向けた話し合いを持つなど、さらなる検討の機会を持つことが望まれる。
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	言葉かけは、入居者一人ひとりの個性に応じて配慮しながら行われている。記録の取り扱いなどにも配慮している。また、夜間時には、本人や家族が望めば、プライバシーや安眠を確保するために居室の内側から鍵が掛けられるように支援している。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	外出や行事の参加は、内容などを説明し決定は本人に委ねている。墓参りや食べたい物など、入居者の意向にそった支援ができる様に心がけている。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	グループホーム座々の大きな特徴として、食に力を入れている。年間を通じての食の行事も季節を楽しむ内容が盛り込まれ、暮らしにおける食の楽しさを実現している。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	入浴は毎日でも希望にそって、体調などを考慮し、気持ちよく入浴できるように支援している。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	入居者の趣味や生きがいを見出し、花を活ける支援や編み物、園芸など楽しみごとを暮らしの中で活かせるように支援している。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	日常的には同法人が運営するデイサービスセンター・特別養護老人ホームの行事参加やドライブ・散歩などに出かけている。できるだけ個々の希望に合わせて外出できるように支援している。		
		事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	日中は玄関に鍵をかけていない。玄関は日常的には、見守りや確認を行い、鍵をかけない工夫をしている。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	毎月定期的に避難訓練を実施しており、迅速に対応できるように時間を計測するなど目標を持ち実施している。		避難訓練の時に非常ベルを鳴らすため、事前に近隣住民の方のご理解を得ている。
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	毎日の食事は栄養士により、カロリー・蛋白質・塩分摂取量が計算され把握されている。食事・水分摂取量はチェック表に記録し、個々の管理を行っている。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	共用空間・廊下はゆったりと広々とした造りとなっている。玄関・共用空間・廊下のあちこちにソファや椅子が置かれ、独りで過ごしたり、仲間同士で過ごしたりできるように工夫されている。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	居室には、一般の民家と同じように木の表札が掛けられ、個々の好みに応じて暖簾も掛けられ、住まいとしての工夫が見られる。また、各居室に写真が貼られ、家具も持ち込まれ、思い思いに過ごせる空間づくりを実現している。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			